

第1回3月11日知事メッセージ起草委員会 主な意見

日 時 平成28年1月7日(木) 15:00～16:00

場 所 応接室（本庁舎2階）

出席者 委員長：知事

委員：加藤卓哉、菊池信太郎、佐々木孝司、蜂須賀禮子、
本多環、横田純子、芳見弘一（50音順）

事務局 企画調整課 安齋課長、加藤主幹、中村主任主査、佐久間副主査

1 全体的な趣旨・方向性

- ・「過去・現在・未来」、この時の流れを、このメッセージに、思いを入れたい。
- ・震災から6年目、復興の新しいステージに向かうんだという強い「決意」をこの中に入れていきたい。
- ・「共感」という思いも込めたい。このメッセージ自身が、たくさんの県民の皆さんの思いを出来る限り入れ込んだものにしたい。
- ・風化が進んでしまう中で、この3.11のメッセージが、より伝わるものでないと、その風化の波の中で消えてしまう。
- ・「2011年からの5年」という見方と、「2020年から見て、ちょうど10年の中の半分、折り返し地点になった」という見方。2020年は、福島県の復興計画の最終年次、目標年次。ちょうどその年に、東京オリンピック・パラリンピックがあって、世界中が間違いなく、日本を、福島を注目する。
- ・未来から、（2011年から）5年後どうだったんだと必ず見られるので、そういう思いも持って、我々は言葉を紡いでいかななくてはならない。
- ・5年の節目に、県民自らが踏み出していく、未来へ踏み出していく、そういう形になるようなメッセージになれば良い。
- ・今、ここに住んでいる子どもたちは元気ですので、こういうことを外の人に示していきたい。
- ・ようやく元気と勇気が出てまいりましたので、それを頑張っているんだねという励ましの言葉で、そこで見つめているという承認、欲求に対して承認するということがあると良い。「思いやりのベールで包んであげる」というか、勢いづけてあげるというのが必要。
- ・県民一人ひとりが、本当に「福島県進んできているよ」、「戻ってきている人いて、もう10万人切りますよ」というメッセージを強く発信できる言葉があれば良い。

- ・この5年間、自分なりに蓄えてきた力、伸びてきた力自分を褒めてあげて、誇りを持って、ここからもう一步ジャンプアップしていけるようなメッセージになると良い。
- ・どんな立場でも、それぞれの半歩でも後退することなく、そういったメッセージは必要。

2 今の姿、復興の現状

- ・光が強くなるほど、影が相対的にもっと濃くなる。
- ・時間が進んで、周りの環境がよくなればよくなるほど、余計に辛さを感じてしまう方もいる。
- ・ここに住む人たちの意識は、もうこのまま福島にしようという気持ちがより強く、固まってきた。
- ・「身体が元気である」ということに照準を置いたのは久しぶりだと思う。
- ・みんなの心が落ち着いて、冷静に自分たちの状況が把握できるようになってきた。
- ・「大丈夫、支えているよ」と後押しする、元気づけることが、現在非常に大切。
- ・「夢を持つことは、目標をもつこと」、目標を持つことには、その夢を実現するために目標をもって、その目標は何かということを考えながら進んでいく、それが今一番大切なこと。
- ・「道半ば」という言葉。この「半ば」を何人の人が、「福島県が進んでいるよ」ということを感じることができるのか。
- ・やはり福島の子どもたちが、まだまだ伝える力、自分らしさを表出する力というのが弱いと感じる。
- ・大きな環境の変化があった中で、どちらかというところ、この5年間、環境を整えてもらう中で、子どもたちが生活してきたというところから、踏み出しきれなかった。与えられることに慣れて、自分の足から歩み出すということが、なかなかできなかつたのではないか。
- ・5年の間で、避難されてきた子どもたちを思いやったり、やさしく関わることで、自分らしさを表出できなかつた子たちが、今ようやく、自分が困っているという思いを表出し始めている。
- ・1年間の間で、本当に福島イメージが変わったかと言われると、正直変わったとは思っていない。
- ・「5年」というのは、大事な節目だと思うので、守られてきて気づかなかつたことに気付く年。
- ・目標というところはやはり、5年経ったから一人ひとりが目標を持つということが大事。

- ・日本全国共通の思いでいうと、震災があって、自分のふるさとに対する愛情がすごく強くなったのではないか。「ふるさとへの愛情・愛着」といったところが、キーワードになる。

3 今後進むべき道・復興へ向けた決意等

- ・何かできればその自立感を伴うような、意味するようなものを入れてはどうか。
- ・「挑戦」まではいかなくても、「自ら動く」、立てなくてもとりあえず動く、このあたりの心がどう文章に込められていくか。
- ・夢を持てるようなキーワードを、「未来」のところであれば良い。
- ・子どもの健康について、もう一度ちゃんと考えて、「どうやって新しい世の中でそれを培っていくかということも、福島は一生懸命考えていますよ」というようなメッセージを。
- ・受け身の姿勢からは停滞しか生まれない。
- ・点が面になるような動きをする。
- ・知事から「未来を信じて、ふるさとを愛して」という形で呼びかけていただいた方が良い。
- ・「挑戦」という言葉。今、5年間、自分が地道にやってきたことを、もうちょっと力強くやっていけたらよい。
- ・これからは、今5年間、つらい思いがあってもそこで踏ん張り続けたことを一度自分で認めて、褒めてあげた上で、ここから新たな一步を踏み出すということができるようになると良い。
- ・福島県の子どもたちがみんな今の状況から一步踏み出せるような、そういうエネルギーを持ってもらいたい。
- ・今の中学生、高校生の震災を受けた子たちが、福島を好きで、生きていってもらわないといけない。ほんとに誇りにしてもらわないといけない。
- ・「福島だからできる」、「福島だからこの現実があって、福島だから最先端で取り組んでいる」という、気持ちの部分であったり、技術の部分であったりということを出せばよい。
- ・挑戦はずっとしなければならぬと思うので、挑戦という言葉でなく、「福島の何かの挑戦」とか、何か加えた上での「挑戦」の方が良い。
- ・「挑戦」という言葉はさらに強めていかなければならない。
- ・あらゆる地方のため、それが日本のため、もっと広くあげると世界のために、挑戦をし続けるということが共感を呼んでいくのではないか。
- ・福島のためだけに福島県民頑張っているのではないんだというような思い。
- ・福島に住むということは、ある意味マイナスだけではなくて、夢を叶えられる場

第1回3月11日知事メッセージ起草委員会 主な意見

所であって、いろんなことに挑戦できる場所であるかと思うので、未来をつくるため、フロントランナーという言葉もあるが、はじまりの土地でもある。